

第 22 回 町田市認知症施策推進協議会議事録

日 時：2024 年 2 月 2 日(金) 18 時 30 分～20 時 30 分

場 所：町田市役所 2 階 2-1 会議室

出席者：芳賀博、村山秀人、加田博秀、田畑潤子、井上俊、佐藤奈美子、田中一恵、
長谷川昌之、畑中猛、平本佳暢、内山加奈絵、徳田雄人、井上美恵子

欠席者：中川種栄

【順不同、敬称略】

傍聴者：2 名

資 料：資料 1 「2023 年度町田市認知症施策関連 取材・視察対応一覧」

資料 2-1 「2023 年度 認知症施策実績報告（スケジュール）」

資料 2-2 「2023 年度 町田市認知症施策実績報告（報告書）」

資料 3 「認知症の人やその家族の視点を重視した地域づくりの推進について」

資料 4 「認知症早期対応・受診の支援の充実」

資料 5-1 「いきいき長寿プラン 24-26 掲載事業一覧」

資料 5-2 「いきいき長寿プラン 24-26_パブリックコメント用 概要版 1208」

資料 5-3 「いきいき長寿プラン 24-26_パブリックコメント用 素案（抜粋）」

資料 6 「2024 年度町田市認知症施策に係る計画について（案）」

資料 7 「2024 年度新規事業について」

資料 8 「2023 年度認知症疾患医療センターの実績報告について」

1. 開会挨拶

- ・早出課長より挨拶

2. 報告事項

(追加) 前回協議会の内容(行方不明高齢者の捜索支援)について回答〈事務局〉

- ・質疑応答 なし

(1) 2023 年度町田市認知症施策関連 取材・視察対応について【資料 1】

- ・説明〈事務局〉
- ・質疑応答 なし

(2) 2023 年度町田市認知症施策実績について【資料 2】

- ・説明〈事務局〉
- ・質疑応答 なし

(3) 認知症の人やその家族の視点を重視した地域づくりの推進について【資料3】

・説明〈事務局〉

・質疑応答

〈村山委員〉Dカフェの対面開催が始まったが、当事者が平均1人。毎回同じ人なのか？それとも違う人が参加されているのか。

〈事務局〉0人の時もある。3店舗の平均で1人。新しい方が来ることもあと聞いている。

〈井上俊委員〉映画「オレンジ・ランプ」の上映会について、ほかの会場を使った映画上映を検討している。法政大学の講堂でもできないかという話がある。今後は一人あたり550円で視聴可能人数を増やすことができるが、市役所で予算をつけることはできるのか。

〈事務局〉今年度の予算はすでに決まっており、追加で負担は難しい。次年度以降の普及啓発事業の内容は関係者の方々と相談して決めていきたい。

〈長谷川委員〉Dカフェファシリテーター育成はどのように行われるのか知りたい。オンラインDカフェは対面開催の代わりに始まったが、今後は継続するのか。継続する場合はオンラインと対面のすみわけはどうするか。

〈事務局〉ファシリテーター育成について、決まったプログラムはない。また、プログラム化することで育成できるものでもないと考えている。現行の育成方法は、ファシリテーター候補者と現任のファシリテーターとで一緒にDカフェに参加し、進め方を学んでいる。今後候補者にフィードバックを行うなど、時間をかけて育成していきたい。

オンラインDカフェについて、店舗に足を運ばない方からのニーズがあると感じている。高齢者はオンライン参加が難しいこともあり、試行錯誤している。課題はあるものの一度作った仕組みなので、オンラインと対面のすみわけについて、次年度はアンケートを取りニーズを把握したいと考えている。

(4) 認知症早期対応・受診の支援の充実について【資料4】

・説明〈事務局〉

・質疑応答

特になし

(5) 「(仮称)町田市いきいき長寿プラン24-26」における認知症施策について

【資料5-1～5-3】

・説明〈事務局〉

・質疑応答

〈井上美恵子委員〉いきいき長寿プランの指標について、現状値 54%で目標値が 56%となっているが、目標値の根拠を教えてください。

〈事務局〉同様の指標について、これまでの実績から、この目標値の設定が適切だと認識している。取組を推進していく上で、実現性のある数字として 56%と設定した。

3. 協議事項

(1) 2024年度町田市認知症施策に係る年間計画(案)について【資料6】

(2) 2024年度新規事業について【資料7】

・説明〈事務局〉

・質疑応答

〈徳田委員〉感想になるが3点お伝えしたい。4番目の認知症の人の家族支援について、オランダ発でミーティングセンターというものがあり、家族支援と本人支援と関係性の支援の3つの柱が大事だとされている。本人支援と家族支援も大事だが、その間の関係を支援するということがキーワードとして挙げられている。今後考えるときのポイントとして、本人支援、家族支援をしつつ、関係性をどのように維持していくのが大事になる。3つの柱を同時に実現できる場所を作っていくことがとても大事だと感じた。

3番目の認知症サポーターへの支援について、いい方向性だと思う。全国的に認知症サポーターになったがその後どうしたらよいかという課題が20年ほどある。個人で登録だけでもその後につながらないので、グループ化するのは一つの解とある。地域ごとに集まっていく方向性を作るのが大事だと感じている。交流会の場で、可能であれば、参加者が仲良くなった上で、どんなことができるかのアイデアを総括するような場や一緒に何かをしたら何が出来るかを考える時間を作れたら良いと感じた。

アイ・ステートメントを広く認知してもらうのは大切だと思うが、書いてある中身をどう実現していくのかを深めていく必要があると感じた。広く浅く知ってもらうのも大事であるし、一つ一つの文章をどう実現していくのか目標に向けてどう深堀していくのかを突き詰めていくようなワークショップがあっても良いと感じた。

〈井上俊委員〉年間計画(案)には出てきていないが、災害時に認知症高齢者への支援を考えなければならないと感じた。災害時の支援で、他の県で予防的に施策を考えているところがあるのか。

〈徳田委員〉訓練をしているところはある。福祉避難所の模擬訓練であったり、認知症の方だけではなく障がいのある方と一緒に時間を過ごすワークショップをしている自治体は知っている。福祉避難所は計画上はあるが、実際に計画通りに運用できているところは少ないと思う。特に認知症に絞って考えるとなかなかうまくいかず、遠方にグループホームごと動くというのが東日本大震災の時は多かった。

〈事務局〉認知症の人の災害時の支援という点で、昨年度、普及啓発事業の一環で、認知症と防災をテーマに高齢者支援センターの方々と話をした。岡山県倉敷市真備町のぶどうの家（グループホーム）を運営されている方で認知症の人の避難を考えている地域の方に話を伺った。災害時のことを平時から考える機会として、演劇を取り入れたワークショップを地域の方と一緒にいるとの事例を聞いた。町田市の認知症の取組として災害時の具体的な取組はないが、町田市全域で個別避難計画の作成の検討を進めている。計画を作成する中で、認知症の人の配慮が必要な事項について考えるきっかけとなったらいいと考えている。

〈長谷川委員〉言葉について、「認知症の人」という言葉と「当事者」という言葉の使い分けの意味はあるか。

〈事務局〉特に使い分けてはいない。

〈長谷川委員〉「認知症の人」で統一したほうが良い。

〈井上美恵子委員〉家族からの電話相談について、切羽詰まった方から相談窓口が開いていない時間に個人の電話に入ることがあるが、このような場合、どこに電話をすればよいのか、誰に相談すればよいのかという点について、どのようにしたら安心できるのかを危惧している。切羽詰まっている状態の方への対応ができるような体制を整えていけるようにしないといけないと思っている。事務局として何か考えはあるか。

〈事務局〉「(4) 認知症の人の家族等への支援」の取組に該当するところだと思う。認知症の人の家族に特化した支援というものがなかったので、ニーズ把握からしていきたい。町田市認知症友の会にて実施している電話相談の中での生の声を聞かせていただきながら検討したいと考えている。ご意見があればいただきたい。

〈芳賀会長〉アイ・ステートメントの認知度が一般高齢者で0.3%とほとんどの人が知らない状況である。それに対し、ワークショップでアイコンを作成するとあるが、アイコン作成だけで一般高齢者の認知度は上がるのか。一般高齢者に馴染みのある媒体で周知をしないと認知度が上がらないのではないか。

〈事務局〉アイコンは作成するだけでなく、どう活用していくかが大事だと思っている。ワークショップの中で、市民の方や企業の方等の意見を聞きながら、どう活用していけばより広めていけるのか、自分たちでどのように活用できるのかを考えていきたい。ゆくゆくは徳田委員が言っていたように、アイ・ステートメントそのものの理解を深めていくところまで行きたいと考えている。

〈内山委員〉認知症サポーターの活動支援の部分で、活動したいサポーターが実際の活動につながっていないという話があったが、町田市で色々な取組を行っているのに、その取組には認知症サポーターの方たちが関わっていないのか。

〈事務局〉これまでは認知症サポーター養成講座を受けた後に、町田市に登録してもらった制度がなく、町田市で認知症サポーターがどのように活動しているのか等の活

動状況を把握していなかった。登録制度を始めたことで、町田市を取組を情報提供できるようになったので、これからはメールで周知をしていきたいと考えている。

〈内山委員〉アイ・ステートメントについて、町田市の地域の人に広めたいのであればテレビのCMで流す等しないと広まっていけないのではないかと思う。活動が先に始まって、その後にアイ・ステートメントができたというところで、なかなか関連付けて考えられなかったものを、今回関連付けて実施していく計画があることはいいと思う。アイ・ステートメントについて、大学生に何が出来るかを考えてもらうことは行っているとのことだが、高齢者の方たちに広めているようには思えないが、何か策はあるのか。

〈事務局〉今年度は、アイ・ステートメントをテーマにしたワークショップを大学生対象に実施はしている。また地域団体向けにも実施したものの、高齢者に向けて周知活動ができていないのが現状である。アイコンの作成等も含めて、今後は検討していきたい。

〈村山副会長〉認知症サポーターの活動支援について、地域型認知症ステップアップ講座を実施する予定とのことだが、認知症サポーター養成講座を受けた方に対してオレンジリングやカードを渡しているように、ステップアップ講座を受けた方にも証明等何か別のものを提供してもらえたら、モチベーションにつながったり、活動をしていることが分かるようになるのではないか。

相談窓口は、地域にインフォーマルなものが増えてきているという印象がある。電話相談を受けている中で、ご案内をするときに、ここを見れば色々載っていますよという資料が充実するといいと思っている。

2点質問したい。1点目が、認知症まちづくりワークショップの中で、今後認知症の人のやりたいことを引き出すためにという部分で、東京都だと認知症希望大使が出てきている。認知症希望大使はどのように任命されるのか。2点目は、アイ・ステートメントの内容について、今後見直しをする機会は出てくるのか。

〈事務局〉1点目について、東京都の認知症希望大使は各自治体から推薦で選出し、任命されている。認知症施策を推進していく上で、認知症希望大使を推薦するというのもひとつの方法であると認識しているが、町田市では大使として任命はしなくても、認知症サポーター養成講座等で自分の意見を発表していただける方を把握しているので、特に推薦はしていない。2点目について、アイ・ステートメントの内容は、目指す姿として現状に合致していると判断しているので、見直す予定はない。

〈井上俊委員〉アイ・ステートメントについて、高齢者の認知度が低い。テレビを見ていない、広告を見ていない、新聞を見ていないという方もいると思う。高齢者が自主グループで活動している場（町トレ等）で、アイ・ステートメントの話をして意識づけをしていかないと普及は難しいのではないか。

〈事務局〉アイ・ステートメントの認知度が低いというところで、いただいたご意見

を参考にしながら、手法を検討していきたい。自主グループの場合での意識づけというご意見いただいたが、介護予防の活動をしているグループで認知症サポーター養成講座を実施していたりするので、市の方でつながりのある高齢者に知っていただくことも一つの方法として、様々な方法を検討し、多くの方に知ってもらえるような取組を行っていきたい。

〈田中委員〉徳田委員が関係性の支援をポイントとして挙げていただいたが、どのようなプログラムがあるのか。関係性が固まっていると、介入ができないことがあり、関係性の支援について中身はどのようなものか教えていただきたい。

〈徳田委員〉認知症仙台研究センターで矢吹先生が研究をされていて、ミーティングセンターを日本に導入しようということで、10自治体ほどに一体的支援をするためのプログラムを走らせている。関係性がこじれてしまっていると、個々のプログラムが効果を発揮しないということが分かってきた。関係者が集まって考えていくというのが大きな枠組みであり、一緒にワークショップを行ったり、手法はいくつかある。

〈井上美恵子委員〉町田市認知症友の会では、認知症サポーター養成講座を修了した方の実習の場になるという案内の仕方で、高齢者支援センター等でチラシを配布している。認知症の本人と会ったことがない人もいるので、本人と家族介護者とサポーターの交流会をしているので、周りの人がどういう対応をしているのかを見るという意味でも参加してみしてほしい。認知症サポーター養成講座を修了した方の情報を活かして活用をするために、登録者の情報などを共有してほしい。

〈事務局〉メールで配信するにあたり、内容やチラシのデータをいただけたら、情報提供をすることは可能。幅広い地域の情報を、登録したサポーターの方にこまめに情報提供していけたらと思っている。

〈佐藤委員〉アイ・ステートメントを高齢者の方に知ってもらおうというところで、ワークショップに高齢者の方に入ってもらい、周知する対象の方が「こういう形なら受け入れやすい、分かりやすい」という意見を聞く場を設けることは考えているのか。高齢者支援センターでも相談等でアイ・ステートメントについて案内しているが、伝えたいが伝えられないというジレンマがあるので、高齢者の方のご意見を聞いてみたいと思っている。

〈事務局〉ワークショップは幅広い方を対象にしようと考えている。周知したい対象の方を呼ぶというのは大事なことで感じたので、周知の方法や対象の検討をしていきたい。

4. その他

- (1) (1) 2023年度認知症疾患医療センターの実績報告について【資料8】
・説明〈村山副会長〉

- ・質疑応答 なし

(2) 各委員からの報告

- ・報告なし

5. 閉会

- ・芳賀会長より総括

〈芳賀会長〉対面での協議会で、委員の方からたくさんの意見をいただきました。新たな年度の計画に、委員の皆様からいただいた意見を参考にさせていただいて、具現化に結び付けていただけたら良いと思う。次年度から「町田市いきいき長寿プラン 24-26」で認知症とともに生きるまちづくり事業が展開されていくが、更なる事業の拡充を期待している。

6. 事務局からの連絡

- ・通算 10 年の任期を満了した委員からの挨拶
〈芳賀会長〉〈加田委員〉〈徳田委員〉

7. 次回の予定

- ・第 23 回町田市認知症施策推進協議会 2024 年 7 月頃開催予定（対面開催予定）